

一色中部小学校の取り組み

自他を思いやり、
人とのつながりを求め、築く子どもの育成



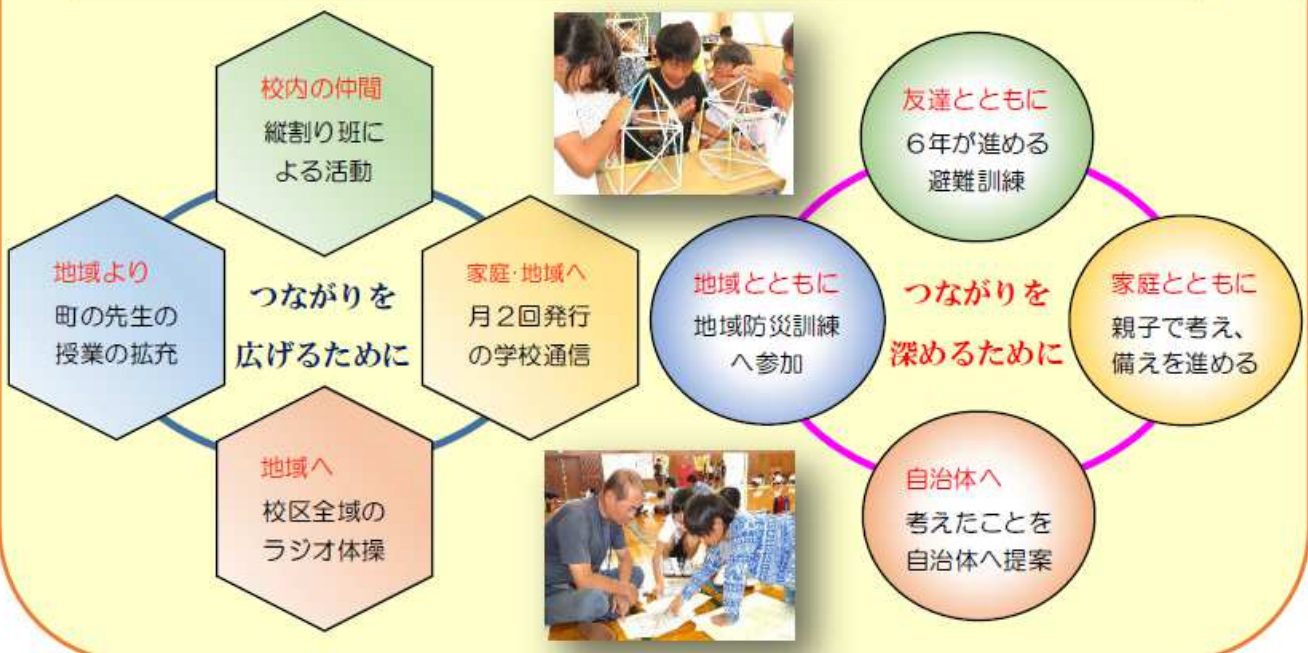
本校のある一色町は、西尾市南部に位置し、三河湾に面している。海拔0m地帯もあり、南海トラフ巨大地震が発生すれば、最大4.4mの津波が53分後に到達すると想定されている。また、埋め立て地が多く、大規模な液状化現象も起きると予想されている。本校は浸水想定区域ではないため、一色町の中の数少ない指定避難所の一つである。

6年の子どもたちは、防災資機材庫の調査をする中で、一色中部小学校には備蓄食料や水がないことに気づいた。

そこで、町内会や自主防災会、市役所の危機管理課に働きかけ、協力して防災備蓄棚を完成させることができた。



防災を起点として、一中小の仲間、家庭、地域と手を携える学校づくりをめざす被災して追い詰められた状況でも、思いやりの心を失わない子どもを育てる



人とのつながりを広げるために

6色の縦割り班による活動

児童会活動「なかよし集会」を各学期に1回行った。運動会では、綱引きなど、班対抗の競技を行った。



地域の方とラジオ体操

校区7会場で実施した。5日間でのべ3,000名が参加し、地域の方とともに気持ちのよい汗を流した。



地域の方が入る活動

すべてのクラブや防災学習に町の先生や町内会長、自主防災会会長に参加していただいた。



人とのつながりを深めるために

1年「がっこうだいすき」

校内の危険なものや安全な場所を調べたことを生かし、保護者とともに自分の家の危険調べを行う。



2年「元気なほくら安全な町」

屋外の危険なものや安全な場所について調べ、保護者とともに通学路点検を行う。



3年「自分のいのちは自分でまもろう」

生活の24時間総チェックを行い、在宅時の避難行動を考え、「わが家のぼうさい計画」パンフレットを作る。



4年「めざせ、わが家のぼうさいリーダー」

地震が起きる仕組みや、これまで起こった地震の被害を調べ、災害への備えについて考える。



5年「安全を守る防災マップを作ろう」

災害時における自分の地区の危険な場所や安全を守るために設置されている設備を調べ、防災マップを作製する。



6年「ほくら一中小防災リーダー」

平日の屋間を想定し、避難所設営訓練を行う。そこでの気づきを地域の方に提案し、自分たちが地域のためにできることを考える。



全校防災集会

1年間の防災学習の成果を学年ごとに発表する。講師の名古屋市港防災センターの近藤ひろこ先生より「命が助かる」＋「みんなと一緒に生き延びる」ための心構えを学んだ。



さまざまな想定による避難訓練

防災リーダーの6年が中心となり、児童同士が声をかけ合って訓練を行う。

